

全体版の概要 埼玉県四半期経営動向調査(平成18年10～12月期)

I 調査結果の総括

1 県内中小企業の経営動向

総括

県内中小企業の経営動向は、緩やかな回復の動きにやや足踏み感がみられる。

(景況感が2期ぶりに悪化した。景況感DI：前期 ▲39.3 → 当期 ▲41.7)

今後の見通しについては、先行き不透明感が強い中、後退懸念が高まった。

2 県内中小企業の経営者からみた経営動向

(1) アンケート調査結果から

○経営者の景況感

【県内中小企業の景況感DI】

▲41.7で、前期比2.4ポイント低下。2期ぶりに悪化。

＜業種別にみた景況感DI＞

【製造業】

▲32.6で、前期比3.1ポイント低下。2期ぶりに悪化。

「電気機械器具」や「鉄鋼業・非鉄金属」などの10業種で悪化。

「家具・装備品」及び「食料品」の2業種は改善。

【非製造業】

▲49.0で、前期比1.7ポイント低下。2期ぶりに悪化。

「卸売・小売業」、「情報サービス業」及び「建設業」の3業種で悪化。

「運輸・倉庫」、「不動産業」、「サービス業」及び「飲食店」の4業種は改善。

○売上げ／3期連続で改善。来期は悪化する見通し。

○資金繰り・採算／2期ぶりに改善。来期は悪化する見通し。

○設備投資／実施率は前期と同じ。来期は低下する見通し。

(2) ヒアリング調査結果から

○経営者の景況感

【製造業】 輸送用機械器具やプラスチック製品などの多くの業種は、
おおむね横ばいで推移している。

【小売業】 一部に明るい兆しはあるものの、弱含んでいる。

【情報サービス業】 上向いている。

II 調査要領

1 調査の対象

県内中小企業

2 調査の方法

(1)書面によるアンケート調査 (2)業界団体及び個別企業への訪問ヒアリング

3 調査対象期間

平成18年10～12月(調査時期:平成18年12月)

4 調査対象業種及び回答数

① アンケート調査・・・景況感など、特別調査事項

・ 製造業 : 960企業中、回答数 661企業 (回答率68.9%)

・ 非製造業※ : 1,240企業中、回答数 826企業 (回答率66.6%)

計 : 2,200企業中、回答数1,487企業 (回答率67.6%)

※製造業(12業種) : 食料品、衣服・その他の繊維製品、家具・装備品、
パルプ・紙・紙加工品、印刷・出版、プラスチック製品、
鉄鋼業・非鉄金属、金属製品、一般機械器具、電気機械器具、
輸送用機械器具、精密機械器具

※非製造業(7業種) : 建設業、卸売・小売業、飲食店、情報サービス業、
運輸・倉庫、不動産業、サービス業

②ヒアリング調査

・ 製造業 : 23企業・組合

・ 小売業 : 9企業・商店街

・ 情報サービス業 : 3企業

計 : 35企業等

5 実施機関

埼玉県産業労働部産業労働政策課及び埼玉県産業労働センター

Ⅲ 調査結果概要

1 アンケート調査結果の概況

(1) 経営者の景況感と今後の景気見通し

景況感は2期ぶりに悪化した。今後の見通しについては、先行き不透明感が強い中、後退懸念が高まった。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに悪化した。

〈景況感DI : 前期 → 当期 (前年同期)〉

・全体 : ▲39.3 → ▲41.7 (▲42.6)

- ・製造業：▲29.5 → ▲32.6 (▲31.1)
- ・非製造業：▲47.3 → ▲49.0 (▲49.8)

〈「良い方向に向かう」と回答した企業割合：前期→当期〉

- ・全体：10.4% → 7.8%
- ・製造業：11.5% → 7.9%
- ・非製造業：9.5% → 7.8%

〈「悪い方向に向かう」と回答した企業割合：前期→当期〉

- ・全体：20.9% → 25.8%
- ・製造業：20.7% → 23.9%
- ・非製造業：21.0% → 27.3%

(2) 売上げについて

3期連続で改善したが、来期は悪化する見通しである。

当期の売上げDIは、製造業は2期ぶりに、非製造業は2期連続で改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げDIを下回る見通しである。

〈売上げDI：前期 → 当期（前年同期） → 来期〉

- ・全体：▲10.6 → ▲5.2 (3.6) → ▲18.3
- ・製造業：▲8.6 → 0.5 (12.3) → ▲19.3
- ・非製造業：▲12.2 → ▲9.8 (▲1.8) → ▲17.5

(3) 資金繰りについて

2期ぶりに改善したが、来期は悪化する見通しである。

当期の資金繰りDIは、製造業は3期ぶりに悪化したが、非製造業は2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りDIを下回る見通しである。

〈資金繰りDI：前期 → 当期（前年同期） → 来期〉

- ・全体：▲16.4 → ▲16.0 (▲8.8) → ▲20.3
- ・製造業：▲11.9 → ▲12.2 (▲1.6) → ▲18.3
- ・非製造業：▲20.1 → ▲19.1 (▲13.3) → ▲21.8

(4) 採算について

2期ぶりに改善したが、来期は悪化する見通しである。

当期の採算DIは、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算DIを下回る見通しである。

〈採算DI：前期 → 当期（前年同期） → 来期〉

- ・全体：▲28.9 → ▲25.6 (▲18.3) → ▲27.5
- ・製造業：▲26.7 → ▲23.4 (▲9.2) → ▲26.8

・非製造業：▲30.7 → ▲27.3 (▲24.0) → ▲28.0

(5) 設備投資の動向について

実施率は、前期と同じだったが、来期は低下する見通しである。

実施率は、製造業は2期ぶりに低下したが、非製造業は3期ぶりに上昇した。

来期については、製造業、非製造業ともに低下する見通しである。

〈設備投資実施率：前期 → 当期（前年同期） → 来期〉

- ・全体：26.7% → 26.7% (27.6%) → 21.1%
- ・製造業：34.6% → 32.5% (34.1%) → 29.4%
- ・非製造業：20.2% → 22.0% (23.5%) → 14.3%

2 ヒアリング調査結果の概況

(1) 製造業

【景況感】輸送用機械器具やプラスチック製品などの多くの業種は、

おおむね横ばいで推移している。

【売上げ】増えた業種もあったが、前年同期よりも減っている業種が多い。

【受注単価】下がった業種もあったが、ほとんど変わらない業種の方が多かった。

【採算性】ほとんど変わらない業種もあったが、原材料価格の上昇などで悪化した業種が多かった。

【原材料価格】上昇した業種もあったが、ほとんど変わらない業種が多かった。

【品目別の状況】医療機器関連や携帯電話関連などが好調であるが、射出成形機関連など

は減少傾向である。自動車関連については、安定している業種と減少している業種に分かれた。

【設備投資】一般機械、輸送用機械器具及び電気機械器具を中心に、生産設備の新規導入

や老朽設備の更新などを実施した企業がみられた。

(2) 小売業

【景況感】一部に明るい兆しはあるものの、弱含んでいる。

- ・百貨店は、明るい兆しはあるものの、一部で弱い動きがみられる。
- ・スーパーは、弱い動きがみられる。
- ・商店街は、厳しい状況が続いている。

(3) 情報サービス業（ソフトウェア業）

【景況感】上向いている。

[このページに関するお問い合わせ先]

産業労働部産業労働政策課 調査分析担当 Tel:048-830-3723 Fax:048-830-4818 E-mail:a3710@pref.saitama.lg.jp